



京都市立小栗栖中学校通信

小栗栖だより

令和4年1月6日発行

No.12



「創」を意識して・・・



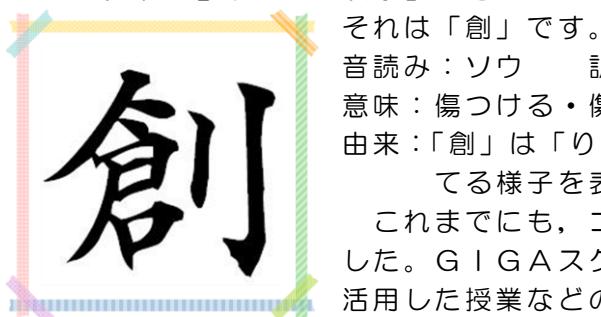
令和4年が幕を開けました。日本海側を中心に年末から寒波が襲い、大雪になっている地域もありますが、京都市内は幸い天候にも恵まれ、比較的穏やかはスタートとなりました。

この2年間、コロナ対策に追われ、何かと制限を掛けざるを得ない状況でした。何とか11月頃から少しずつ平常に戻りつつあり、できることはやっていこうとしていた矢先、今度は「オミクロン株」の心配が出てきました。専門家の予想通りといえばそれまでなのですが、予想していた以上に感染力が高く、年末の規制緩和の影響

か「3ヶ月ぶりに・・・」などという数字がニュースとして飛び交っています。

これまで言い尽くされてきたことと同じなのですが、改めてマスク・手洗い・消毒の徹底を3学期も続けていきたいと思っています。

しかし、新たな年の初めに後ろ向きなことばかり考えているわけにもいきません。年末にもお伝えしましたが、最終的に令和4年の今年の漢字は「創」にしたいのですが、そこに向かうために今年「意識したい漢字」を考えました。



それは「創」です。

音読み：ソウ 訓読み：きず、つく(る)、はじ(める)

意味：傷つける・傷つく、切り傷、作る・初めて事を起こす、始め
由来：「創」は「りっとう」が刃物を表し、材木を切って「倉」を建てる様子を表現している

これまでにも、コロナに関連して新しいスタイルが生まれてきました。GIGAスクール構想として元々あったもののタブレットを活用した授業などのICTの活用。特にリモートでの会議などは急速に進化しています。

これまでのことができないのであれば「新しいものを創る」「創めてみる」そんな気持ちが大切だと思います。まさに令和7年度に新たに開校する義務教育学校に向けてピッタリの文字です。もちろん一人一人の力は大切ですが「みんなで共に創る」ことが大切です。

この3月末で小栗栖小学校は閉校となり、4月からは一次統合として石田小学校に通うことになります。これまでの通学路が逆になる児童がいることから、小栗栖中学校の生徒も通学路について協力する必要が出てきます。山科川の土手から降りてくる階段も急ピッチに工事が進んでいます。少しずつではありますが形が見え始めてきた「統合」です。自分のこととして、そして後輩のためにしっかりと取り組んでいってほしいと思います。

まだまだコロナに対して油断ができない状態ではありますが、みんなの力で第6波をなんとか食い止め、これ以上新しいギリシャ文字を耳にすることのない1年にしていきましょう。

今年もよろしくお願ひいたします。

＜当面の予定＞

1月 6日（木）3学期始業式

7日（金）給食再開（午後も授業）

14日（金）避難訓練（地震想定）

18日（火）3年定期考査（20日まで）

19日（水）PTAあいさつ運動（8時15分～）

25日（火）1・2年学習確認プログラム（26日まで）